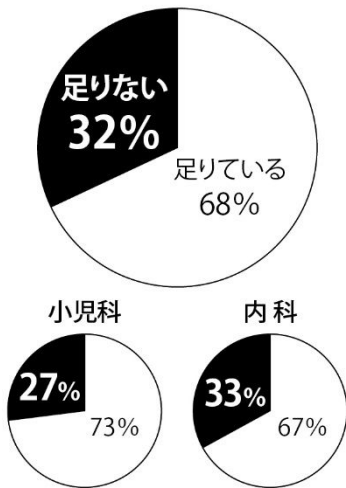


MRワクチン 内科33%が不足

●約3割が「足りない」

協会会員から「MRワクチンがなかなか入荷しない」、「協会として供給の実態を調査してほしい」との要望が寄せられたことを受け、協会地域医療部は、11月16日に会員3,782人（小児科、内科等）に「予防接種に関する緊急アンケート」をFAXで送付し、11月21日までに都内851人の会員から回答を得た（回収率22.5%）。

図4 MRワクチンの在庫(全体)



集計の結果、内科の33%、小児科の27%が「MRワクチンが足りない」と回答、全体では32%が「足りない」と回答した（図4参照）。昨年度の納入量との比較では、「少ない」が12%、「同じ」が52%、「多い」が24%だった（図5参照）。

●回答の3割「例年通り接種できず」

MRワクチン接種希望者への対応では、「ふだん診ている患者を優先し、新規希望者は断っている」8%、「大人の接種は見合わせている」6%などが続いた。何らかの問題があるとの回答は3割に達し、「例年通り接種できている」は63%だった（図6参照）。

図5 MRワクチンの納入量
(昨年度比較)



●「大人の接種」断るクリニックも

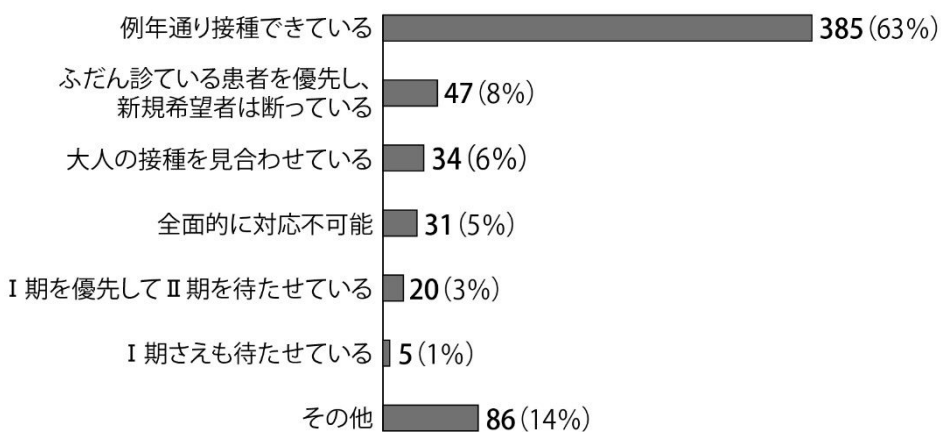
MRワクチンの納入状況では「小分けにされ一度の納入量が少ない」が32%、「発注しても納品されない」が14%、「発注後すぐに全量が納入される」は54%だった。会員からは「子どもの定期接種分をなんとか確保している状況、大人の接種は申し訳ないが断らざるをえない」など、風疹の流行をくいとめるために必要な、大人への接種ができない状況を危惧する声が寄せられた。

●風疹流行STOPへ！ 緊急対策を

風疹患者の累積報告数は2018年12月12日現在、2,586人と発表された（国立感染症研究所）。昨年と同時期と比較し約28

図6 MRワクチン接種希望者への対応（複数回答：件数）

※調査期間：2018年11月16日～11月21日



倍もの風疹患者が報告されている。国立感染症研究所は12月12日に「風疹流行に関する緊急情報」を発表し、先天性風疹症候群（CRS）の発生を防ぐため、妊婦の周囲の者へのワクチン接種、また低抗体価の30～50歳代男性へのMRワクチン接種を呼びかけてい

る。東京保険医協会は10月16日、国の責任で風疹大流行への緊急対策を求める要望書を厚生労働大臣宛に提出している。